

# Profitability and Cost Management Readmeリリース11.1.2.4.000

リリース 11.1.2.4.000

製作著作 © 2015

## 目次

目的 .....	1
このリリースでの新機能 .....	1
インストール情報 .....	2
サポートされているプラットフォーム .....	2
サポートされている言語 .....	2
サポートされているこのリリースへのパス .....	2
このリリースで修正された問題 .....	3
既知の問題 .....	4
ヒントとトラブルシューティング .....	4
ドキュメントの更新事項 .....	8
ドキュメントのフィードバック .....	9
アクセシビリティの考慮事項 .....	9

## 目的

このドキュメントには、Oracle Hyperion Profitability and Cost Managementのこのリリースに関する重要な最新情報が含まれています。Oracle Enterprise Performance Management Systemをインストールする前に、このReadmeを熟読してください。

## このリリースでの新機能

Oracle Hyperion Profitability and Cost Management新機能を参照してください。このリリースにおけるインストール、アーキテクチャおよびデプロイメントの変更に関連する新機能は、Oracle Enterprise Performance Management System Readmeのこのリリースの新機能に関する項を参照してください。

以前のリリースで追加された新機能のレポートを作成するには、累積機能概要ツールを使用します。このツールを使用すると、現在の製品、現在のリリース・バージョン、ターゲット実装のリリース・バージョンを特定できます。シングルクリックによって、現行リリースとターゲット・リリースの間に開発された製品機能の高レベルな説明のカスタマイズ済セットが迅速に生成されます。このツールはこちらにあります：

<https://support.oracle.com/oip/faces/secure/km/DocumentDisplay.jspx?id=1092114.1>

## インストール情報

EPM System製品のインストールに関する最新情報は、*Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System* インストールおよび構成*Readme*を参照してください。EPM System製品をインストールする前に、この情報をよく確認してください。



注:

現在、Oracle Smart View for Officeは、EPM Systemインストーラではインストールされません。Smart Viewの最新リリースをダウンロードしてインストールするには、<http://www.oracle.com/technetwork/middleware/smart-view-for-office/overview/index.html>にアクセスしてください。

## サポートされているプラットフォーム

EPM System製品のシステム要件およびサポートされているプラットフォームに関する情報は、*Oracle Enterprise Performance Management System*の動作保証マトリックスにスプレッドシート形式で提供されます。このマトリックスは、Oracle Technology Network (OTN)の「Oracle Fusion Middleware Supported System Configurations」ページに掲載されています:

<http://www.oracle.com/technetwork/middleware/ias/downloads/fusion-certification-100350.html>

## サポートされている言語

EPM System製品のサポートされている言語に関する情報は、*Oracle Enterprise Performance Management System*の動作保証マトリックスの「Translation Support」タブにスプレッドシート形式で提供されます。このマトリックスは、OTNの「Oracle Fusion Middleware Supported System Configurations」ページに掲載されています:

<http://www.oracle.com/technetwork/middleware/ias/downloads/fusion-certification-100350.html>

## サポートされているこのリリースへのパス

EPM Systemは、次のリリースからリリース11.1.2.4にアップグレードできます:

注意: アップグレードの手順は、*Oracle Enterprise Performance Management System* インストールおよび構成ガイドのEPM System製品のアップグレードに関する項を参照してください。

表1 サポートされているこのリリースへのパス

アップグレード・パスのリリース: 元...	リリース11.1.2.4へ
11.1.2.x	メンテナンス・リリースを適用して、リリース11.1.2.4に移行します。 注: Oracle Hyperion Financial Close Managementでは、リリース

アップグレード・パスのリリース: 元...	リリース11.1.2.4へ
	11.1.2.2 または 11.1.2.3 からのみメンテナンス・リリースの適用がサポートされています。 Oracle Hyperion Financial Managementでは、リリース 11.1.2.1 、 11.1.2.2 または 11.1.2.3 からのみメンテナンス・リリースの適用がサポートされています。
11.1.1.4.x	リリース 11.1.2.3 にアップグレードしてから、メンテナンス・リリースを適用して、 リリース 11.1.2.4 に移行します。
リリース 11.1.1.0.x から 11.1.1.3.x	メンテナンス・リリースを適用して、リリース 11.1.1.4 に移行し、リリース 11.1.2.3 にアップグレードしてから、メンテナンス・リリースを適用して、 リリース 11.1.2.4 に移行します。

## このリリースで修正された問題

この項では、リリース11.1.2.4.000で修正された次の不具合について説明します。

20086079 – Profitability and Cost Managementの中国語バージョンを使用するときに、一部のメニューが翻訳されていませんでした。

この項には、リリース11.1.2.3.5xxパッチ・セットで修正された不具合は含まれません。以前のリリース間で修正された不具合のリストを確認するには、問題修正ファインダを使用します。このツールでは、ユーザーが所有する製品と現在の実装リリースを識別できます。シングルクリックによって、修正された不具合の説明および関連するプラットフォームとパッチ番号を示すカスタマイズ済レポートが生成されます。このツールはこちらにあります：

<https://support.oracle.com/oip/faces/secure/km/DocumentDisplay.jspx?id=1292603.1>

## 既知の問題

このリリースで注意が必要な既知の問題は次のとおりです。

- 20361826 – Smart View問合せを管理元帳Profitabilityアプリケーションで使用するとき、問合せでディメンション名にスペースが含まれると、問合せが失敗し、例外メッセージが表示されます。
- 20358800、20366544 -- Profitability管理元帳アプリケーションがSolarisシステムのInternet Explorer 11で正常に表示されません。このプラットフォームでは、Internet Explorer 10またはサポートされるバージョンのFirefoxを使用してください。
- 20354742 – 標準Profitabilityアプリケーションおよび管理元帳アプリケーションにおいて、参照するディメンション・メンバーのメンバー名に&記号が含まれるSmart View問合せは検証エラーで失敗します。
- 20352749 – Solarisプラットフォームで、APS接続タイプを使用すると、標準Profitabilityおよび管理元帳のEssbaseへのデプロイメントが失敗します。これが発生した場合は、埋込み接続タイプ( [5ページの接続タイプの埋込みモードへの変更](#))を使用してください。
- バグ20351826 - 管理元帳Profitabilityサンプル・アウトラインBKSM12は、Unicodeアプリケーションにしか保存できません。Unicode以外の形式でアプリケーションに保存すると、ファイル保存エラーが発生したことがエラー・メッセージによって示されます。
- 20293473 – HPM\_EXP\_CALC\_SCRIPTは、HPM\_CALC\_SCRIPTのすべての行を選択しません。processMultiPOVCalcScript WebサービスAPIによって作成された行を省きます。
- 20219396 – 汎用ディメンションが動的階層タイプに関連付けられていると、レポート・キューブのデプロイメントが失敗します。ASOキューブでは、属性ディメンションを動的汎用ディメンションに関連付けることはできません。この問題は、標準アプリケーション・タイプと管理元帳アプリケーション・タイプで発生します。
- 19385648 – 複数のスレッドで1つの視点 (POV)を並列モードで実行しているときに、Essbaseタイムアウト例外が発生することがあります。逐次モードでの実行を試行してください。モデルが大きい場合(ルール多数)、この問題は逐次モードで発生することもあります。ルールを小さなルール・セットにグループ化することをお勧めします。その場合にこのエラーが検出されたら、一度に1つのルール・セットを実行するか、ルールを個々に実行してみてください。
- 18966716 – processCalcOptions WebサービスAPIでは、クリアするステージのリストに少なくとも1つのステージを追加する必要があります。ステージをクリアしたくない場合は、最後のステージをリストに追加します。このステージには、操作が実行される時点でデータが含まれない可能性が高いためです。
- 18803075 -- Profitability and Cost Managementインスタンス全体ですべてのアプリケーションのすべてのディメンションにディメンション・メンバーの別名が定義されていないとき、「ドライバの選択」、「例外」、「割当て」および「割当てルール選択」画面にそのデータを表示することができません。画面がちらついて内容の表示が消えます。回避方法としては、Profitability and Cost Managementインスタンスの少なくとも1つのアプリケーションの少なくとも1つのディメンションに対して少なくとも1つのメンバー別名を作成します。

## ヒントとトラブルシューティング

### サブトピック

- [ディメンション・メンバーの名前](#)
- [ODBCドライバの推奨事項](#)

- Profitability and Cost Management接続タイプを使用した問題の解決

最高のパフォーマンスを実現するために次の情報を確認してください。

## ディメンション・メンバーの名前

他のディメンションまたは階層のメンバー名として、システム・ディメンション・メンバー名を使用しないことをお勧めします。たとえば、DirectAllocationまたはGenealogyAllocationはAllocationTypeディメンションのシステム・メンバーです。モデルの他のディメンションではこれらの名前を使用しないでください。

## ODBCドライバの推奨事項

詳細Profitabilityアプリケーションでは、PROFITABILITY\_DSと呼ばれるユーザー構成ODBCデータ・ソースが必要です。これによって、詳細Profitabilityアプリケーションで使用できるようになった3つのEssbaseレポート・キューブにデータを転送します。詳細は、*Oracle Hyperion Profitability and Cost Management 管理者ガイド*のデータ転送のためのODBCデータ・ソースの作成に関する項を参照してください。このデータ・ソースの構成にはOracle Data AccessクライアントのDataWire ODBCドライバを使用することをお勧めします。

## Profitability and Cost Management接続タイプを使用した問題の解決

デフォルトで、Profitability and Cost ManagementはEssbaseへの接続に埋込みモードを使用します。APSを使用している場合、APSモードでは、Essbaseキューブのデプロイ中に多数のTCPポートを使用します。この状況が原因で、Profitability and Cost Managementのログ・ファイルにネットワーク・エラーが表示される場合があります。

### 接続タイプの埋込みモードへの変更

APS接続タイプの使用時にネットワーク・エラーが発生する場合、接続タイプを埋込みモードに切り替え、キューブを再デプロイしてください。

▶ 接続タイプを埋込みモードに設定するには:

1. Profitability and Cost Managementで、「タスク領域」から「モデルの管理」、「モデルの要約」の順に選択します。
2. 「モデルの要約」画面で、「モデル・レベルのプリファレンス」タブを選択します。
3. 「Essbase接続情報」の下で、「接続タイプ」ドロップダウン・リストから「埋込み」を選択します。
4. 「保存」アイコンをクリックします。

### 埋込み接続タイプへのJVMOptionの設定

Profitability and Cost Managementで埋込み接続タイプ・モードを使用して、(特に分散構成で)上手くOracle Essbaseに接続できない場合は、環境変数ESS\_ES\_HOMEをOracle Hyperion Profitability and Cost ManagementのJVMOptionとして設定し、binおよびdataという2つの空のフォルダを含むローカル・フォルダを指定する必要があります。

- システムにAPSがインストールされている場合は、ESS\_ES\_HOMEをAPS\_HOME環境変数と同じ値に設定します。(APS\_HOMEは要求されたフォルダ構成であることが必要です。)

- APSがインストールされていない場合は、ESS\_ES\_HOMEを空のbinおよびdataフォルダを含むフォルダに設定します。



注:

APS接続タイプ・モードを使用している場合は、何も変更する必要はありません。

▶ JVMOptionを埋込み接続タイプに設定するには:

1. Profitability and Cost Managementサーバーを停止します。
2. HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Hyperion Solutions\Profitability0\HyS9HyS9PftWebのWindowsレジストリを編集します。
3. JVMOptionXを追加します(ここでXは、既存のJVMOptionsの数値に基づいた1つ上の整数です)。たとえば現在、JVMOptionCountが10進数の17に設定されている場合は、JVMOption18を追加します。
4. -DESS\_ES\_HOME=<folder-name>になるように、新しいJVMOptionXに文字列値を設定します。ここでフォルダ名は空のbinおよびdataフォルダを含むフォルダの名前です。
5. JVMOptionCountを次の整数に増やします。たとえば、JVMOption18を追加した場合は、JVMOptionCountを10進数の18に設定します。
6. Profitability and Cost Managementサーバーを起動します。

## Windowsの大量のネットワーク接続用の設定

▶ 大量のネットワーク接続を処理するWindowsオペレーティング・システムの能力を高めるには:

1. Windowsレジストリで、HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\TCPIP\Parametersにナビゲートします。
2. 次のレジストリ・エントリを追加または変更します:
  - TcpTimedWaitDelay — ソケットがすぐに解放されるようにこの値を低い値(30など)に設定します。このDWORD値の範囲は、30から300の間です。
  - MaxUserPort — ポートに接続できるソケットの合計数を増やすため、この値を高い値(33000など)に設定します。これはDWORD値です。



注意

これらのパラメータを変更する前に、Microsoft Windowsオペレーティング・システムのドキュメントで詳細を参照してください。

3. システムを再起動して、変更内容を反映します。

## Linux用のローカル・ポート範囲の拡大



注意

この変更は、システムを熟知しているシステム管理者のみが行ってください。システム管理者は、この変更を行う前に、オペレーティング・システムに対するすべての影響を考慮してください。

- ▶ 多数の外部ネットワーク接続に対処するため、Linuxサーバーの機能を向上させるには、ローカル・ポート範囲を拡大します:

1. Linuxシェルで、次のコマンドを入力して現在の範囲を検索します: サンプル出力:

```
$ sysctl net.ipv4.ip_local_port_range
```

サンプル出力:

```
net.ipv4.ip_local_port_range = 32768 61000
```

2. 次のいずれかのコマンドを使用して新しいローカル範囲を設定します:

- # echo 1024 65535 > /proc/sys/net/ipv4/ip\_local\_port\_range **OR**
- \$ sudo sysctl -w net.ipv4.ip\_local\_port\_range="1024 64000"



注:

使用可能なパラメータが`/proc/sys/`にリストされます。このオプションが役立つのは、高帯域幅のビジーなLinuxサーバーまたは大規模グリッド・サーバーのみです。

3. `/proc filesystem` (ローカル・ポート範囲)を永続的に変更するには、`/etc/sysctl.conf`ファイルを編集して次の行を追加します:

```
# increase system IP port limits  
  
net.ipv4.ip_local_port_range = 1024 65535
```

## ライフサイクル管理に対するデフォルトのWebLogicタイムアウト設定の変更

ライフサイクル管理を使用して大きいモデルをインポートする場合、Oracle WebLogic Serverのデフォルト・タイムアウト設定で指定された時間よりもインポート処理に時間がかかることがあります(不具合7166332)。この問題を回避するには、次の手順の説明に従って、デフォルト・タイムアウト設定をリセットする必要があります。

- ▶ WebLogic Serverのデフォルト・タイムアウトを変更するには:

1. `%Middleware_HOME%\user_projects\epmsystem1\httpConfig\ohs\config\OHS\ohs_component\mod_wl_ohs.conf`にナビゲートします。
2. この構成ファイルでセクション`LocationMatch/profitability`を確認します:

```
<LocationMatch /profitability>  
SetHandler weblogic-handler  
PathTrim /  
KeepAliveEnabled ON  
KeepAliveSecs 20  
  
WLIOTimeoutSecs 3000  
Idempotent OFF  
  
WeblogicCluster servername:6756  
</LocationMatch>
```

3. LocationMatch/profitabilityセクションに次の行を追加します:

```
WLIOTimeoutSecs 3000
Idempotent OFF
```

4. 次にナビゲートします:

```
%Middleware_HOME%\user_projects\epmsystem1\httpConfig\ohs\config\OHS\ohs_component
\httpd.conf
```

5. 次のテキストに示すように、Timeoutを3000に設定します:

```
# Timeout: The number of seconds before receives and sends time out.
Timeout 3000
```



注:

前述のサーバー・タイムアウトは推奨の制限で、使用しているアプリケーション・サーバーのドキュメントに指定されている特定のタイムアウト設定に合うように変更できます。

## ドキュメントの更新事項

### EPM System製品ドキュメントへのアクセス

Oracle Help Center (<https://docs.oracle.com/en/>)で最新のEPM System製品ガイドを検索します。表示またはダウンロードするドキュメントにアクセスするには、「Applications」アイコンをクリックします。「Applications Documentation」ウィンドウで「EPM」タブを選択し、「Enterprise Performance Management」リンクをクリックします。

また、Oracle Technology Network (<http://www.oracle.com/technetwork/index.html>)およびOracle Software Delivery Cloud Webサイト([http://edelivery.oracle.com/EPD/WelcomePage/get\\_form](http://edelivery.oracle.com/EPD/WelcomePage/get_form))でデプロイメント関連のドキュメントを検索することもできます。または、EPM Systemのドキュメント・ポータル(<http://www.oracle.com/us/solutions/ent-performance-bi/technical-information-147174.html>)にアクセスできます。ここでは、My Oracle SupportやEPM Supported Platform Matricesなどへのリンクがあります。

### Internet Explorerのオンライン・ヘルプ

Internet Explorer 9を使用する場合、一部の表とテキストがオンライン・ヘルプに誤って表示されることがあります。

### PDFからのコード・スニペットのコピーと貼付け

PDFファイルからコード・スニペットを切り取って貼り付ける際、貼付け操作時に一部の文字が失われる場合があります。これによりコード・スニペットが無効になります。回避策: コード・スニペットをHTMLバージョンのドキュメントから切り取って貼り付けます。

## ドキュメントのフィードバック

製品のドキュメントに対するフィードバックは次の電子メール・アドレスに送信してください。

EPMdoc\_ww@oracle.com

次のソーシャル・メディア・サイトのEPM情報開発をフォローしてください:

- YouTube - <http://www.youtube.com/user/OracleEPMWebcasts>
- Google+ - <https://plus.google.com/106915048672979407731>
- ツイッター - <https://twitter.com/HyperionEPMInfo>
- Facebook - <https://www.facebook.com/pages/Hyperion-EPM-Info/102682103112642>
- LinkedIn - [http://www.linkedin.com/groups?home=&gid=3127051&trk=anet\\_ug\\_hm](http://www.linkedin.com/groups?home=&gid=3127051&trk=anet_ug_hm)

## アクセシビリティの考慮事項

オラクル社では、障害のあるお客様にもオラクル社の製品、サービスおよびサポート・ドキュメントをご利用いただけることを目標としています。EPM System製品は、製品のアクセシビリティ・ガイドに記載されているアクセシビリティの機能をサポートします。このガイドの最新版は、Oracle Technology NetworkのOracle Enterprise Performance Management System Documentation Library(<http://www.oracle.com/technology/documentation/epm.html>)にあります。

また、このReadmeファイルはHTML形式で提供され、アクセシビリティ機能がサポートされます。

## 著作権情報

Oracle® Hyperion Profitability and Cost Management Readme,  
Copyright © 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: EPM 情報開発チーム

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクルまでご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

### U.S. GOVERNMENT END USERS:

Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアまたはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、Oracle Corporationおよびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはオラクルおよびその関連会社の登録商標です。その他の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に別段の定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。